

## 「れいんぼ一神戸」

### 地域密着型LGBTコミュニティからの報告

れいんぼ一神戸代表 内藤れん

2012年12月より、お茶会を開催。他に講演活動、コミュニティや交流会の紹介活動などしている。活動を開始して10周年であり、それを記念して今回の発表を行う。

#### お茶会

2012年12月から月に一回、神戸市内でお茶会をしているサークル。2022年12月で10周年、かつ100回を突破した。

「だれでも参加できて安心して話せる場」を目指して運営している。

基本的に毎月で開催で、参加者のセクシュアリティも年齢も問わない。特に聞くこととしていないので、傾向は不明である。

参加費はとっておらず、カンパ制で、任意。「お金がある人は500円くらいくれたら嬉しいけど、ない人はいらないです」というスタンスで運営。今のところ(一応)黒字運営。カンパは会場代、備品、お茶代などに使用している。参加者が多い月の分で、参加者が少ない月や、お金がない人の分をまかなっている。元々は参加費は会場代と備品のみに使用して、お茶お菓子代は持ち出していた。しかしこれは持続可能性を損ねると判断し、今はお茶代もカンパから出すようにしている。お菓子に関しては、主宰者がお菓子を買うのが趣味(食べるのはそうでもない)ので、主宰者からの寄付である。参加者から差し入れてもらうこともある。

コロナ以後あまり出していないが、お茶とお菓子を振る舞っているの、お茶会を名乗っている。交流会というよりもお茶会と言った方が気楽に参加できるかなと判断し、(多分)始めた頃からお茶会と呼んでいる。

はじめたころからの伝統として、名札をつけてもらっている。コロナ前は大きな単語帳のカードに名前を書いて名札ケースに入れてもらっていた。コロナ以降は接触を減らすために養生テープに油性マジックで名前を書いて貼ってもらっていて使い捨てている。名前がわからないと性別を特定した呼び方をする可能性が高まるので、名札は必要だと思っている。主宰が人の名前を覚えるのが苦手なため、はじめから導入している。

#### お茶会の概歴

主宰の内藤が神戸出身であることから立ち上げた。16歳の頃に梅田にあるQWRCにアク

セスして、もっと行きたいと思った。内藤は16才ながら働いていたので梅田にあるQWRCにアクセスできた。しかし同世代で同じような仲間は行く場所がないのではないかと考えた。神戸市は都会であるにも関わらず、内藤自身が通いたい場所が見つからなかったため、「ないなら作ろう」とはじめた。

はじめは駅から少し離れた公民館だった。3時間1000円未満の格安だった。チラシは友だちに手書きで作ってもらったものを30枚くらいだけ家のプリンターで印刷した。QWRCで知合った先輩方や、口コミで人が集まって、チラシはあまり活躍しなかった。参加者は毎回10名程度。会場を借りるのに現地に行かねばならないことが負担で、数回で会場を変えた。

その次に使った会場は三宮駅からすぐのビルにあった。会場代は倍以上になったが、電話でも予約がとれる。立地もよく設備や環境も整っていた。その頃には参加者数は少し減っていて、だいたい5~10名程度をうろうろしていた。そこでは長くやっていたので、一番少ないときで参加者が1人だったこともある。それぞれ一度だけ、午前中にしたときと、夜間に開催したことがあった。いずれも参加者はゼロだった。

元々は会場を利用できる13時から17時まで開催していた。ここ5年ほどはスタートの準備と撤収の時間を考え13時半から16時半の開催にしている。

ここ最近は主宰のスケジュールの都合で、だいたい第二土曜に開催している。固定で会場を抑えているわけではなく、他の予定の都合もあるので、たまに違うタイミングでも開催することがある。

2022年5月、今まで使っていた会場の移転に伴い、会場を変更した。最近の参加人数はだいたい2~10名だ。最近の参加者の傾向としては、アライの方の参加が増えているように思う。参加人数にはムラがあり、多い月があるかと思えば、誘った人しか来ない月もある。

定例で開催するお茶会の他にはイベントはしていない。コロナ前はテーマを決めてお菓子を集めて出すといったちょっとした企画はして

いた。また、毎年12月にはちょっとクリスマスっぽいことをしている。

### 地域にコミュニティがある意義

たくさんの意義があると思うが、今回は2つを挙げる。

①コミュニティにアクセスしてみたいのに、交通費や時間が課題で参加できない人が参加できるようになる。

②「自分のいる地域でも自分のことを考えてくれているひとがいる」というメッセージが伝わる。

①を解説すると、参加してみたいができていない人も、地域にコミュニティがあれば、交通費など金銭的な理由や、移動時間に時間がかかるなどの問題なく、アクセスすることができるように考えた。

参加費を必須としていない理由も関連する。多くの交流会が参加費は500円程度であるが、お金が自由にならない人には500円の負担は大きい。交通費がしんどい人をターゲットとすると、より参加費の負担感は大きいだろうことが予想される。特に若者や障がいのある方などはお金があまりない人が多い。自身が若者だったときにはじめてのこともあり、元々はお金のない若者が参加できる場を、という気持ちがあった。実際活動している中で、お金が自由にならない人というのは若者だけではないと気付いた。障がいのある方も参加費の負担が大きく感じがちであるということは視野になかったが、実際に参加された際に話を聞き、需要に気付いた。また、障がいのある方は長距離の移動が難しく、そういった面でも地域にコミュニティがある必要性があるとわかった。

②「自分のいる地域でも自分のことを考えてくれているひとがいる」というメッセージが伝わることは、地方で孤立している人をエンパワメントできる。自分が「そうかも」と気付いても、まだコミュニティに行くことはない人もエンパワメントできるのではないだろうか。

### お茶会の課題

広報に課題がある。現在の初参加者の半数以上がTwitterで情報を得て参加されている。ホームページは存在しているが、更新しておらず、広報にはあまり役立っていない。2022年の後半に、近々Twitterが終わるという噂があるが、もしなくなったられいんぼ一神戸は検索しても上がってこなくなる。広報を一ヶ所に頼るのは危険が高いため、幅を拡げるべ

きだ。

Twitterの他は、口コミでの参加が多い。参加者の友人が参加したり、他のコミュニティで知り合った人に声をかけてくれている。今はそちら方面の情報拡散を更に伸ばしたいという思いがある。2022年に10周年を迎えるにあたり、デザインのできる友人に依頼しチラシを作った。以前イベントごとに合わせてチラシを自作したことはあったが、必要枚数印刷した程度であった。きちんとデザインされたチラシを作ったのは初である。

郵送で配布を依頼したりはしていない。コミュニティをしている知人や、LGBTに関連した施設に預けたりすることで、拡散してもらっている。

### 講演活動

内藤は2012年より講演活動をはじめた。はじめは他団体の所属としてまわっていたが、2013年頃かられいんぼ一神戸としても活動している。現在は他の所属として活動していることが多くなっているが今でもれいんぼ一神戸にご依頼いただいたられいんぼ一神戸として行くこともある。主に兵庫県内、特に神戸以西の依頼が多い。

### コミュニティ/相談先紹介活動

2018年頃より、正式に関西のコミュニティと相談先を紹介する活動をはじめた。活動をはじめて数年、れいんぼ一神戸にお悩みの相談をされる方が増えてきていた。れいんぼ一神戸は任意団体であり、ひとりで運営している。そのため、ご相談があまりに多いと対応が追い付かない。また、もしもなにかあったときに責任をとることも難しい。トラブルがあったときに責任をとることができないのであれば、個別の相談を受けるべきではないと考えている。そのため、ご相談の連絡をいただいたときは、適切だと考えるコミュニティや相談先を紹介している。元々その活動はしていたが、2018年ごろより相談が増えたために、公式の活動とした。ちょうどその直後に新型コロナウイルスの感染が発生した。それもあってか、最近は紹介してほしいというご依頼が増えている。

### 今後の活動

元々は地域にコミュニティがある必要性を感じ、れいんぼ一神戸をはじめた。地方にコミュニティがあれば、金銭的、時間的に余裕がなくてもアクセスできるかもしれないし、エンパワメントもできるかもしれない。

地方は神戸だけではない。主宰の内藤自身が神戸出身だったため、神戸市で開催しているが、他の地域でもコミュニティをはじめたい人の支援ができればと考えている。同じ神戸市でも西側の方では行けるコミュニティが限られるので、そちらにもなんとか拡げることができないかと考えている。

月に一回お茶会を開催することは続けたい。それに加え今後の展開として、他団体のサポートをしたい。また、今以上に連携していければいいと考えている。